

# 朝日旧友会定時総会



# 朝日旧友会報

朝日旧友会

東京都中央区築地五-1-12

朝日新聞東京本社内

〒104-8011

TEL 三三四五〇一〇二二

FAX 三三四三三三三三

平成二十九年定時総会日程

〔日時〕定時総会 五月十八日(木)

〔場所〕朝日新聞記念会館(有楽町マリオン11階)

で開催します。

## 苦渋の決断新年総会開催せず

## 喜寿祝賀などは五月の定時総会で

東京・朝日旧友会の平成二十八年度定時総会は五月十九日(木)午後四時から有楽町マリオンの朝日ホールで開かれた。天候不順で雨も心配されたが、会場はそれを吹き飛ばす万青年たちでにぎわった。午後一時半からの映画「アゲイン」上映前には、この日を待ち望んでいた旧友仲間が次々顔を出し「やあ、しばらく。変わりなかった、元気で何より、よかった、よかった」と手をにぎり、抱き合う光景もあった。

総会では中江利忠会長、徳江景英、大野功雄両副会長はじめ旧友会員、二百二十人、本社側から渡辺雅隆社長、小倉一彦東京代表ら役員、幹部四十人が出席、近況を交換しあいにごわった。

## なりふりかまわぬ一強政治に警告 中江会長

## 目指すは信頼度と業界一位 渡辺社長

総会では森精一事務局長もやはりふりかまわず非立憲のもと言論の自由はじめ、民主主義の原点を脅かす実態が進展している」と訴え共感を呼んだ。次いで森司会者が、この一年に旅立たれた会員六十一人のお名前を拝読、黙祷を捧げた。次に奥田信久会計幹事が二十七年年度の決算報告を行い、満場の拍手で承認された。終わって森事務局長が「本

社の経営の悪化から旧友会への補助が大幅削減となり、今年度から年二回の総会は困難となった。このため来年の新年総会を行わず喜寿の祝いも代表あいさつも五月の定時総会で行うことにし、年三回の会報発行も二回とする。これは来年四月から六十歳定年が六十五歳に延長されるため、入会者が激減することにも対応した苦渋の決断です」などと当面している問題を報告して了承された。

来賓として出席の渡辺社長は「目指すのは信頼度、ブランド力、業界ナンバーワン、その紙面のため全社あげて対策を打ち出し、成果も出て来た。この急回復を守り抜いていく……」と決意を語った。

引き続き懇親会。会場全体がいつ気になごやかにとなり、時間の過ぎるのも忘れて語り合った。時間はあっという間に過ぎ、午後七時名残を惜しみ、次の再会を約して帰路についた。皆々様お達者で、またお会いしましょう。

挨拶する中江会長  
左から大野、徳江両副会長、渡辺社長、小倉東京代表

# 「七十年」の重み再確認を 立憲と平和の原点に返れ

「戦後七十年」の昨午が新安  
全保障法制の強行と改憲へのな  
りふり構わぬ疾走に明け暮れた  
のに続いて、今年も戦後憲法公  
布七十年だというのに、「安倍  
一強政治」のもと「非立憲」の  
体制が言論の自由をはじめ民主  
主義の原点を脅かす、という実  
態が進みつつあります。

そんな中で朝日新聞が憲法記  
念日の五月三日の紙面で発表し  
た憲法に関する全国世論調査の  
結果は、ご存知のように安倍政  
権に対する国民の根強い批判を  
反映するものとなりました。

その主な内容をあらためて紹  
介しますと、①憲法で国家権力  
の乱用を防ぎ国民の権利を保障  
する「立憲主義」に「共感しな  
い」が二一％に対し「共感する」  
が七七％ ②いまの憲法を変え  
る「必要がある」が三七％に対  
し「必要はない」が五五％ ③  
憲法第九条を変えて自衛隊を正  
式な軍隊である国防軍にするこ  
とに「賛成」が二％に対し「反  
対」が七一％ ④安倍政権のも  
とで憲法改正を実現することに  
「賛成」が二五％に対し「反対」  
が五八％ ⑤放送法は「表現の  
自由の確保」のほか「政治的に

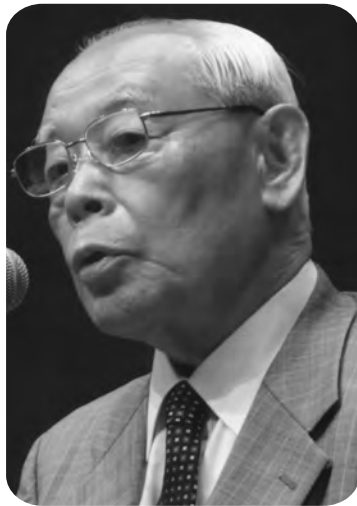
公平であること」を定めている  
が、これを理由に政府が判断し  
て電波停止などを命じるのは「妥  
当だ」が一八％に対し「妥当で  
はない」が七五％、などとなっ  
ています。

## 「安倍改憲」に反対急増

特に憲法を変えることについ  
て昨午の調査結果と比べると、  
「必要がある」が四三％から三  
七％へ減り、「必要はない」が  
四八％から五五％へ増えています。  
また安倍政権のもとで憲法  
改正を実現することについては、  
第一次安倍政権時代の二〇〇七  
年の電話調査で「賛成」四〇％  
、「反対」四二％とほぼ並んでい  
たのに比べると、様変わり。昨  
年から今年にかけての「安倍一  
強政治」への国民の警戒感が、  
如実に表れていると言えます。  
同時に、別の設問で「憲法を  
変えるか変えないかについての  
議論がどの程度深まっていると  
思うか」に対して、「かなり」「あ  
る程度」深まっている、との答  
えが計一六％にとどまっている  
のに、「あまり」「まったく」深  
まっていない、との答えが計八  
二％に上っている点が注目され  
ます。

これについて安全保障法制の  
反対集会にも参加した東大名誉  
教授の樋口陽一さんは、「前の  
めりの改正論ではなく、憲法は  
長い尺度で議論する必要がある」  
と、むしろ来年の平和憲法施行  
七十年を大きな節目に据えてお

延期すると決めて、今の国会で  
の党首討論をはじめとして論議  
が渦巻いています。  
しかしこの増税先送りは、一  
千兆円を超える国の借金残高を  
更に増やし、日本国債の格下げ  
も招いて財政の一層の不健全化  
を招き、社会保障政策の後退や、  
「億総活躍プラン」など新ス  
ローガンの空疎化につながり、  
安倍政権の一枚看板だった「ア  
ベノミクス」の失敗を認める結



中江旧友会会長あいさつ

相次いで経営の失敗や不正の露  
見から撤退や外国資本による買  
収などに遭っている中、この事  
態に忠告する、ある専門家の声  
が寄せられました。  
米国のクレジットカード大手  
ビザの中華圏公共政策ディレク  
ターをしているアンディ・イー  
氏が日本経済新聞に寄せたコラ  
ムで、世界のICT（情報通信  
技術）分野での価値の創造のう  
ちサービスの割合は一九九六年  
の五％から二〇〇九年には二二  
％に拡大したが、日本は二％未  
満にとどまっている、とのデー  
タを示しながら、次のように指  
摘しています。

「より完璧なハードウェアを  
追求するものづくり職人文化の  
思考は、ソフトウェアやサービ  
スに重点を置く顧客中心のモデ  
ルには適合しにくい。日本企業  
は過去の第三次産業革命の成功  
モデルという呪縛から脱出して、  
IOT（インターネット・オブ・  
シングス）を中心とする第四次  
産業革命に必要なソフト・スキ  
ルやグローバルな発想を早急に  
身につけるべきだ」。

オバマ米大統領のサミット後  
の広島初訪問、一方で金正恩・  
労働委員長体制になった北朝  
鮮の、経済建設と並進させる「核  
戦力建設」、チエルノブイリ原  
発事故三十年・東日本大震災の  
東電原発事故六年の中で進む日

本原発規制の骨抜きなど、核  
をめぐる問題は尽きません。  
**未来志向の企画特集に期待**  
「憲法の大もとにそった細か  
いルールがあつたて、やさし  
い国ができあがつたり、けんか  
が好きなき国ができあがつたり  
します」と十年前に劇作家の井上  
ひさしさんが『子どもにつたえ  
る日本国憲法』という本で遺言  
しました。日本が喧嘩を丸く収  
める、やさしい国を目指すため  
には、やはり立憲と平和の原点  
に戻って世界と「共生」して行  
くしかありません。

さて本社では、感染症や貧困  
対策を手始めに地球規模の課題  
をどのように解決できるか、読  
者と共に考える「2030 未  
来をつくらう」という意欲的な  
企画特集が、五月から紙面でス  
タートしました。  
この「解決模索型ジャーナリ  
ズム」の具体的な実行にとどま  
らず、「第四次産業革命」に対  
応したメディア・フォーラム、  
メディア・プロダクションの展  
開、広告部門の「メディアビジ  
ネス」部門への発展的改組など  
は、本社の再生が確実に軌道に乗  
り始めた証しと判断しています。  
私たち旧友もこれら本社の動  
きを期待をもって見守り大いに  
支援して、朝日新聞の新たな発  
展に寄与してゆきたいと考えま  
す。

## 消費増税再延期の危険

そんな中で安倍首相は、来年  
四月に予定されている消費税の  
税率一〇％への引き上げを再び

五月の伊勢志摩サミットや今  
夏の参院選挙などを目指した性  
急な政治展開ではなく、いわば  
「七十年」の重みを再確認して  
当面少なくとも三年続きの広範  
な論議が求められている、と言  
えましよう。

## 「第四次産業」に目覚めよ

一方で、日本のかつての高度  
成長を演出したブランド企業が

果にもなつてしまっています。  
安倍首相はこの決断を、伊勢  
志摩サミットでの議論の結果を  
踏まえて行う見通しですが、そ  
のサミットで採択を目指す財政  
出動の協調など世界経済の成長  
回復を謳う「首脳宣言」の内容  
が、もともと難航する見通しと  
もなつています。

社長あいさつ



「経営の現状は」と渡辺社長

東京旧友会のみなさま、本日は総会にお招きいただきまして誠にありがとうございます。中江会長をはじめ東京旧友会のみなさまには、日ごろからさまざまにご意見や叱咤激励をいただき、大変心強く思っております。この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。本日は、新年度とともにスタートした中期経営計画に沿った最近の動きや経営の現状などについてお話をさせていただきますが、その前に、余震が続く熊本・大分の地震で被災された方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

大きな震災が起きますと、私は真っ先に、一九九五年一月に起きた阪神・淡路大震災のことを思い出します。当時、大阪社会部にいた私は、七、八時間かかって現地にはどり着きました。直後に痛感したのは、新聞は被害の全容を伝えようとするあまり、被災者にとって必要な情報を十分に伝え切れていないとい

うことでした。すぐにそのことに気づいた大阪の紙面では、ライプラインの復旧状況を詳しく載せるようになりました。その経験は、東日本大震災などそれ以降の震災に生きています。今回の熊本・大分の地震でも、支援物資が必要な場所に行き渡らないという問題が起きているといえます。被災した方々の身になって、総力挙げて必要な情報を、現地の方々にお届けしたいと思えます。

四月に開始した中期経営計画でも、「ともに考え、ともにつくる」豊かな暮らしに役立つ総合メディア企業へ」という目標を掲げました。情報やサービスをさまざまな形でお客さまに届けることができるメディアへと

進化します。M&Aといわれる企業買収なども積極的に使って新しい事業を収益の柱に育て、新聞事業に依存しすぎている現状を改めます。広告部門をメディアビジネス局に再編し、企業の課題解決に役立つ「ソリューションビジネス」を確立する。不動産をはじめとしてジャーナリズムを支える新たな事業を育成する。ASAとの新事業を起し、支える体制を構築する。といったいくつかの柱があります。いくつかご紹介いたします。若者向けの紙面では、「U三十五チーム」をつくりました。編集だ

ライプフェスティバル」です。毎週月曜日の特集面「Reライプ」と連動した企画で、定員二千人に対して三倍以上の応募が集まり、会場は盛況でした。今後も定期的に、東京だけでなく大阪をはじめ各地でも開くことを検討します。

知的好奇心が強い層の支持を広げる朝日新聞のフラッグシップとしてブランド化を進めている「グローバル」は、五月から発行回数を月一回に減らしました。デジタルとの連携を強め、内容をより充実させました。読者

暮らしに役立つ総合メディア企業へ  
読み手意識の紙面作り目標に

けでなく各部門の若手社員を集めました。若者の声にじっと耳を傾けることを重視し、四月の紙面改革に合わせて実験をはじめました。その一つが、土曜日夕刊紙面の「ココハツ」です。デジタル媒体「ウィズニュース」で情報発信し、反応をふまえて紙面をつくっています。反響は上々で、四月の閲読率調査ではココハツの初回紙面は同じ日の第一社会面と同じ閲読率でした。「女性」と「アクティブシニア」の対策は、昨年からのプロジェクトを立ち上げました。その第一弾が、今年二月末に開いた「Re

隠された事実を掘り起こす調査報道に力を尽くすことです。私たち現役の役員、社員はみなしっかりと受け継いでいます。

憲法記念日の朝、私は阪神支局襲撃事件で亡くなった小尻知博記者のお墓に向かうため、広島にいました。米国のオバマ大統領が現職としては初めて訪れる平和記念公園を、一足先に私も、一時間ほどかけて歩きました。原爆問題を担当した約三十年前のことを思い出しながら、原爆死没者慰霊碑には、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんから。この「過ち」とは、だれの、どんな「過ち」なのか。心ない批判がかつてありました。つい数年前も、ある大手紙に「主語がはつきりせず、まるで日本人が『原爆を落とされるような悪いことはもうしません』と言っているかのよう」に読める」と書いたコラムが載りました。広島市は碑文の趣旨を正確に伝えようと、一九八三年に説明板を設置し、こう記しました。「すべての人びとが、原爆犠牲者の冥福を祈り戦争という過ちを再び繰り返さないことを誓う言葉である。過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和の実現を祈念するヒロシマの心がここに刻まれている」。

朝日新聞社は戦後、「国民と共に立たん」(大阪・西部版で

経営陣結束、反転攻勢

は「起たん」の誓いとともに再出発した報道機関です。戦後育んできた民主主義や平和主義のさらなる発展に尽くすことが私たちの使命です。改憲へとひた走る政権と今こそ、私たちはその使命と責任の重さを痛感し、一層の精進をしなければなりません。

新聞の信頼度を業界ナンバーワンに押し上げ、ブランド力を高めます。それが、広告営業の回復と、広告収入の首奪奪還につながると思っています。信頼度は急回復しています。読者の信頼度、満足度は、落ち込んでいた前回調査(十四年十月実施)から大幅に上昇しました。紙面改革をはじめ全社をあげてさまざまな対策を打ち出してきたことが、成果として現れています。

最後に感謝申し上げたいことがございます。経営環境が厳しさを増すなか、みなさまから引き継いできたジャーナリズムを揺るぎないものにするために、聖域なく支出を見直す作業を進める一環として、有料での購読の継続をお願いしていたところ、賛同してくださったのは全体の八五・五%にのぼります。大多数の方のご賛同をいただけたと思っております。私も現役が必死にもがいていることにご理解をたまわり、社を代表して心より御礼を申し上げます。

平成28年 定時総会出席者

会員出席者

- (あ) 荒木 忠直 青山 勇  
秋庭 武美 秋山 康男  
麻田 幸佑 朝野きらか  
阿部 征夫 荒田 茂夫  
粟田 房穂 粟田伊三雄  
安藤 保雄  
飯沼 和夫 池田 正勝  
池田 守 石井哲次郎  
石川喜代司 猪爪 純一  
市川 健 伊藤 壯  
伊藤 裕造 伊波新之助  
岩井 章 岩松 宰正  
上田 久行 宇野 勝己  
大野 功雄 大坪 正徳  
奥田 信久 大石 悠二  
大竹口高子 大原 昭  
大原 広哉 岡田 和巳  
岡部 匡克 小野寺忠志  
片岡 久明 片山 紘二  
香月 浩之 叶内 均  
金子 晃二 金子 良三  
金成 英雄 加納 安實  
蒲田浩二郎 亀本 泰夫  
川島 正治 川島 正英  
川瀬 智長 川原 基尚  
川辺 久信 川又 健一  
神田橋哲夫

- (き) 菊池 武 喜久村 繁  
清時 竹彦 窪田 康孝  
久保田 敏 黒川ハジメ  
黒河 晃 黒川ハジメ  
高口 信行 児玉 浩憲  
後藤 襄 小林 清吉  
小林 淑郎 小林三千夫  
小松 季司 五味 秀雄  
小山 千宏 紺谷 安弘  
近藤 龍夫 権藤 満  
近藤 行雄 沢上 勇市  
坂井 清保 坂井 勇市  
斉藤 幹雄 齋藤 善男  
阪本 昇司 相良 保彦  
笹井 輝雄 佐々木博志  
佐藤 英雄 佐藤 清治  
沢野 正明 芝 實  
志賀 浩 柴田 鉄治  
柴田 昭二 柴田 勝  
柴田 眞樹 清水 勝  
志村 和雄 志村嘉一郎  
志村 勇 下村 満子  
甚野 隆正 鈴置修一郎  
菅原 道久 鈴木 富夫  
鈴木 益民 数度 富夫  
住川 治人 竹内 實昭  
善當 治昌 竹内 實昭  
高久 陽男 竹内 實昭

- (ま) 田中右太生 高山 修一  
滝下 修 竹市 義弘  
竹内 幸史 竹村 文雄  
田辺 功 谷 久光  
谷口富喜男 寺田 眞文  
寺田 達雄 寺田 眞文  
徳江 景英 都丸 司  
富田 順也 富田 俊彰  
豊田 明 名倉 正昌  
中江 利忠 中島 清成  
中澤 勝巳 中島 芳男  
中島 富次 永田 雅俊  
中野義次正 中村 雅俊  
錦織 正文 西脇 正行  
信澤 秀男 初山 有恒  
島山 弘道 羽原 清雅  
羽鳥健一郎 羽原 常蔵  
浜田 隆 林 透  
林 直樹 早野 幸  
久富 道生 菱沼 保幸  
久富 隆 平賀 道貞  
檜山 隆 廣瀬 道貞  
藤巻 隆 福井 正行  
藤巻 稔 福井 正行  
堀井 淳夫 堀越 作治  
堀野 詔正 前原 寛成  
馬来 勝彦 牧野 寛成  
松 功 松本 精次

- (み) 松本 秀男  
三浦 義晴 三露 久男  
三野 孝文 三宅 勝喜  
宮崎 仁一 宮田 善光  
村上 吉男 村田 敬吾  
村野 坦 村山 朝夫  
森 精一郎 諸 寿子  
森 治郎 森田 恭生  
山越 英一 山田 正子  
山村 行志 山本 祥之  
山崎 悦孝 山田 弘  
横田 稲光 吉澤 忠一  
吉田 弘文  
若目田倫子 和井田祐三  
渡辺 登 渡辺 恒雄  
渡邊 宏

㊦ 寄付

▽ありがとうございます。ございました。

- 岩井 胖 一万円  
牧野 雄一郎 一万円  
中江 利忠 五千元  
谷 久光 五千元  
奥田 信久 五千元  
宇野 勝己 五千元  
斎藤 善男 五千元  
鈴木 和子(團二妻) 五千元  
匿名希望 五千元  
朝野 さらか 二千元  
長谷部 守永 一千元

平成27年度 決算報告書

(平成27年4月1日～平成28年3月)

(単位：円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	4,118,071		
終身会費 (16名)	640,000		
年度会費 (33名)	132,000		
総会会費(2回423名)	2,115,000	総会費	4,377,740
总会寄付金(本社ほか)	4,652,000	会報費(年3回発行)	1,807,931
会報収入	245,000	供花費	395,200
協力会社寄付金 (22社)	1,275,000	会務費	2,272,164
その他寄付金	0	通信・事務用品・雑費	299,737
雑収入	1,215		
		次年度繰越金	4,025,514
計	13,178,286	計	13,178,286

決算報告を承認

平成二十七年年度の決算を奥田会計幹事が報告、満場の拍手で承認された。決算報告は次の通り。



渡辺社長、伊波新之助さん



(左)三露久男さん、中江会長、下村満子さん、三宅勝喜さん



(左)菱沼保幸さん、村山朝夫さん、阿部征夫さん、菊池武さん、柴昭二さん



羽原清雅さん、早野透さん



(左)志村和雄さん、小林三千夫さん



(左)松功さん、三野孝文さん、畠山弘道さん、川辺久信さん



渡辺社長を囲み、われらが仲間全員集合



大原昭さん、田中右太生さん



(左)鈴木益民さん、滝下修さん、小松季司さん、和井田祐三さん、阪本昇司さん



(左)谷口富喜男さん、中江会長、麻田幸佑さん、神田橋哲夫さん



広瀬道貞さん、村野坦さん



(左)高山修一さん、森田恭生さん、徳江副会長



(左)若目田倫子さん、中江会長、大石悠二さん



「ああ、そうだったね」懐かしいなあー



佐藤英雄さん、高山修一さん



(左)志村嘉一郎さん、都丸司さん、笹井輝雄さん



歓談の輪が次々できました。



(左)谷口富喜男さん、岩松宰正さん、山田正子さん



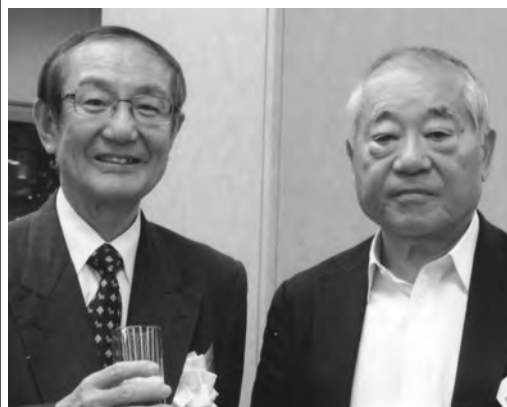
(左)金子晃二さん、近藤行雄さん、山田弘さん



飲むのも食べるのも忘れ、はずむ会話



わが旧友たちは、皆さまい顔しているねー



大野副会長、馬来勝彦さん



(左)香月浩之さん、渡辺社長、秋庭武美さん



谷久光さん、金成英雄さん



(左)石井哲次郎さん、大原広哉さん、安藤保雄さん



「そうだ、そうだった」話は尽きないなあー